

リトアニア政治・経済月間情勢(2月)

概況

- グリボウスカйте大統領は5月に実施されるリトアニア次期大統領選挙への立候補を表明。中央選挙管理委員会は立候補者の受付を終了し、今後、本格的な選挙戦が開始される。
- 2月の1ヶ月間、リトアニアは国連安保理議長国に就任し、リンケビチュウス外相は、国際社会の平和及び安全の維持における法の支配の強化に関する国連安保理公開討論(19日)で議長を務めた。
- ウクライナでの政権交代、クリミア自治共和国の武装集団による占拠を巡り、グリボウスカйте大統領及びリンケビチュウス外相は、直ちにウクライナ暫定政府を支持、承認すると共に、EU及び国際社会に対しては、一貫して対口制裁を主張。
- リトアニア食料・獣医サービス局は、アフリカ豚コレラ感染拡大の危険性に対応するため、アフリカ豚コレラが確認されたポーランドの一部地域から、豚、野生イノシシ、未処理の豚肉及び未加工の養豚用食料を輸入することを禁止する措置を指示。
- グリボウスカйте大統領は、韓国を訪問し、朴槿恵韓国大統領と会談。蔚山において、韓国企業が製造したクライベダLNGターミナル浮体式貯蔵・気化設備の命名式典に出席。
- 23日～3月1日、オレカス国防大臣は訪日し、小野寺五典防衛大臣、岸信夫外務副大臣、中曽根弘文日・リトアニア友好議連会長、日・リトアニア友好協会代表者等と会談。

内政

【3日】グリボウスカйте大統領は5月に実施されるリトアニア次期大統領選挙への立候補を表明。

【11日】オレカス国防大臣は、5月の欧州議会選挙に当選した場合は欧州議員となり、国防大臣の職を辞任する意向を表明。

【16日】リトアニア独立記念日式典が開催された。

【16日】トウスク・ポーランド首相は、ブトケビチュウス首相からの両国首相会談の開催提案に対して、リトアニア側が少数民族問題を改善するとの意思を示さない限り、会談する意味は無いと発言。

【17日】中央選挙管理委員会は、外国人への農地売却禁止に関する国民投票を求める署名簿30万61人分を有効と決定。

【20日】中央選挙管理委員会は、5月の大統領選挙立候補登録の受付を締め切った。この時点で登録された立候補者は、グリボウスカйте大統領(Ms. Dalia Grybauskaitė)、パウラウスカス国会議員(労働党)(Mr. Arturas Paulauskas)、バルツィーティス欧州議会議員(社会民主党)(Mr. Zigmantas Balcytis)、ズオカス・ビリニユス市長(Mr. Arturas Zuokas)、バルシス国会議員(緑の党)(Mr. Linas Balsys)、ブラザウスキエネ氏(ブラザウスカス元大統領未亡人)、トマシェフスキ・ポーランド人選挙活動党党首(欧州議会議員)(Mr. Valdemar Tomasevski)、パウラウスカス氏(1990年3月11日リトアニア独立憲章の署名者)(Mr. Rolandas Paulauskas)、ヴァイシヴィラ氏(1990年3月11日リトアニア独立憲章の署名者)(Mr. Zigmas Vaisvila)、パクスス正義と秩序党党首(欧州議会議員)(Mr. Rolandas Paksas)、プテイキス国会議員(元祖国同盟無所属議員)等の19人。

【25日】2月の政党・政治家支持率調査の結果、「最も利益を代表する政治家」としてグリボウスカйте大統領の支持率が回復し再びブトケビチュウス首相を上回った。政党支持率では、社会民主党が最も高い支持率を維持する状況は継続。先月まで下降傾向にあった労働党の支持率は昨年10月のレベルにまで回復し、野党祖国同盟を抜いて再び3位に浮上。

外 交

【1日】リトアニア、国連安保理議長国就任（2月末まで）。

【3日】リンケビチュウス外相は、第50回ミュンヘン安全保障会議に出席した後、重要議題のひとつであったウクライナ情勢に関して、国際社会はウクライナ政府に対して制裁の可能性も含むより強い立場で臨むべきであると発言。

【4日】リンケビチュウス外相はベラルーシの人権状況に関する国連特別報告者ハラスティ氏と会談。（ベラルーシ政府は、国連特別報告者のマンデートを認めていないため、ハラスティ氏はリトアニアにあるベラルーシ市民社会と協議し、本件報告書を作成する。）

【5日】シャウレイ（リトアニア）を訪問したニーヨニス・ラトビア国防大臣は、オレカス国防大臣と会談し、両国間の軍事協力及び共同プロジェクトに関して協議。

【5日】リトアニア政府は、閣議において、ウクライナの抗議活動参加による負傷者の治療に要する経費として、15万リタス（約4万3,300ユーロ）を割り当てることを決定。

【6日】3日よりリトアニアで治療を受けているウクライナのオートマイダン活動家ブラトフ氏（27日、ウクライナ文化・青少年担当大臣に就任）が記者会見に臨み、キエフで同氏が受けた拉致及び拷問の状況について語った。12日、ブラトフ氏は、ドイツに滞在する父及び祖母を訪問するためドイツに向けて出発。

【6日～10日】ブトケビチュウス首相はソチ冬季オリンピック開会式に参加し、リトアニア選手団のオリンピック村を訪問。ブトケビチュウス首相は、6日にアリーエフ・アゼルバイジャン大統領、7日はメドヴェージェフ露首相と非公式会談を実施。

【8日】エアフルト（独テューリンゲン州）訪問中のグリボウスカイト大統領は、メルケル独首相と会談し、リトアニアと独の二国間協力、ビジネス及び経済関係のさらなる発展並びにエネルギー安全保障問題等を協議。

【10日】グリボウスカイト大統領は当国で治療中のオートマイダン活動家ブラトフ氏と会談。

【10日】ウルビナイテ大統領府報道官（Ms. Daiva Ulbinaite）は、16日に行われるリトアニア独立回復記念日式典に出席する方向で調整中であったコモロフスキ・ポーランド大統領はスキーによる負傷のため出席できなくなったと発言。

【12日】リトアニア国防省は国防ガイドライン「2014－19年」（2014年1月20日にオレカス国防大臣が承認）を公表。

【19日】リンケビチュウス外相は、国際社会の平和及び安全の維持における法の支配の強化に関する国連安保理公開討論（60カ国以上の国連加盟国が出席）の議長を務めた。

【20日】リトアニア最高検察庁は、現在グアタナモに収監されているサウジアラビア国籍の囚人（Mustafa Ahmed al-Wawsawi）が2004年から2006年にリトアニア国内の米国CIA用収容施設に収監され、その後、不法にグアタナモに移送されたとする人権団体からの捜査依頼に対し、その違法性に関する事前捜査を開始。

【22日】リトアニアの医師6人は、一連の抗議活動で負傷したウクライナ国民に対する医療支援実施のため、ウクライナに向けて出発。（ピリニウス空港における本件ミッション壮行会には、ジングリス国会外務委員会副委員長（Mr. Emanuelis Zingeris）及び治療のためリトアニアが受入れているウクライナ人（Mr. Rostislav Melnyk）等が参加。）

【24日】グリボウスカイト大統領は当地ウクライナ大使館を往訪し、亡くなったマイダン抗議参加者を追悼する記帳を行った。（同日、白石大使も記帳。）

【24日】リトアニア外務省は、24日から、新たな憲法枠組みが導入され、包括的な法改革のための基盤が強化され、残された課題である恣意的司法問題が解決されることを歓迎する声明を発表。

【25日】モルドバを訪問中のリンケビチュウス外相は、リンケビッチ・ラトビア外相（2015年第4回東方パートナーシップ首脳会合を開催予定）と共に、モルドバ政府指導者及び反政府勢力代表と会談し、モルドバがEU入国査免渡航のための手続きを完了し、本年夏の終わりまでにEUとの連合協定に署名するという視野に入れた目標を共有。

【26日】リトアニア福音ルーテル教会の招待により、シリア紛争による避難民40人を受入れ。（24日付リトアニア外務省プレスリリースによると、本年は13万8,000リタス（約5万3,000米ドル）相当の対シリア人道支援を実施予定。）

【26日】グリボウスカイト大統領は、ティモシェンコ元ウクライナ首相と電話会談を実施。

【26日】リトアニアのシャウレイ空軍基地において、マジェキス・リトアニア空軍司令官（Maj. Gen. Edvardas Mazeikis）、メゾルス・ラトビア空軍司令官（Col. Avivaras Mezors）並びにタリエン・エストニア空軍司令官（Col. Jaak Tarien）が会談し、バルト三国及び多国間プロジェクトの実施等喫緊の問題を協議。

【14日】グリボウスカイト大統領、プトケビチュウス首相は、リトアニア訪問中のストラウユマ・ラトビア首相と会談。

【14日】訪米中のリンケビチュウス外相は、国連とEUの協力に関する会合に出席し、中央アフリカ共和国、シリア、アフガニスタン、グルジア情勢等に関して協議。

【16日】トウスク・ポーランド首相は、8日にプトケビチュウス首相が両国首相会談の早期開催を希望しており日程を調整中と発言したことに対して、リトアニア側が少数民族問題を改善するとの意思を示さない限り、会談する意味は無いと発言。

【17日】韓国訪問の途次フィンランドに立ち寄ったグリボウスカイト大統領は、ニーニスト・フィンランド大統領と会談し、エネルギー安全保障を中心に協議。

【17日】訪米中のリンケビチュウス外相は、ヌーランド米国国務次官補(欧州・ユーラシア担当)と会談し、両国の戦略的パートナーシップ他を協議。

【18日】グリボウスカイト大統領は、朴槿恵韓国大統領と会談し、韓国企業によるLNG浮体式貯蔵・気化設備の建造に感謝の意を表明。

【18日】第11次リトアニア軍兵站支援チーム(NS E:National Support Element)壮行式が開催され、オレカス国防大臣及びポチウス・リトアニア軍参謀長が出席。

【27日】国会において、ポーランド・リトアニア友好善隣協力協定20周年記念行事が開催され、ポーランド側よりクファシニエフスキ元ポーランド大統領が参加。

【27日】グリボウスカイト大統領は、トゥルチーノフ・ウクライナ大統領代行(最高会議新議長)と電話会談を実施。

【27日】ウクライナを訪問中のリンケビチュウス外相は、26日にクリミア自治共和国行政府及び同議会が武装集団により占拠された事件に対するロシアの適切な対応を呼びかけた。(同日、リトアニア外務省は、この事件を挑発行為と見なしており、ロシアに対して、クリミア分離主義者の行動に同調しないこと及びウクライナとロシアとのクリミア駐留ロシア軍の法的地位に関する協定を厳に遵守し、ウクライナの法律を尊重することを要求する声明を発表。)

【27日】グリボウスカイト大統領は、リトアニア訪問中のクファシニエフスキ元ポーランド大統領と会談し、ウクライナ情勢を中心に協議。

【27日】プトケビチュウス首相は、ヤツェニューク・ウクライナ暫定内閣首相(バチキフシチナ党会派長)に対し、同氏の首相就任に当たっての祝辞を發出。

【27日】プトケビチュウス首相は、ラジオ番組において、今後のベラルーシ訪問日程について発言。招待を受けている5月9日～25日のアイスホッケー世界選手権式典は欠席するものの、ベラルーシのモギレフ市で開催されるリトアニア・ベラルーシ経済フォーラムに参加することを検討するとの意向を表明。

経 済

【16日～21日】訪米中のグスタス経済大臣は米国宇宙基地局本部を訪問し、宇宙空間におけるリトアニアとNASAの協力拡大に関して協議。

【17日】EUはロシアに対し、ジュネーブで開催されたWTO年次報告プレゼンテーションの場において、ロシアが新たに課したリトアニア及びEU産豚肉製品への輸入禁止措置は、WTO規則及びWTOに対するロシアのコミットメントと相容れない非合法的措置であり、直ちにこの措置を撤廃するよう要求。

【20日】ミリウス食料・獣医サービス局長官(Mr. Jonas Milius)は、ポーランドでアフリカ豚コレラ(ASF)が確認されたことから、税務監査局及び金融犯罪調査局と共に、卸売業者、卸売業者の豚肉及び輸入豚肉製品をより厳格に監督すると発言。

【24日】リトアニア食料・獣医サービス局は、アフリカ豚コレラ感染拡大の危険性に対応するため、アフリカ豚コレラが確認されたポーランドの一部地域から、豚、野生イノシシ、未処理の豚肉及び未加工の養豚用食料を輸入することを禁止する措置を指示。

【27日】投資促進機関であるインベスト・リトアニアのダルグジャイテ長官(Ms. Milda Darguzaite)はグスタス経済大臣に辞表を提出。

エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【7日】ソチを訪問中のプトケビチュウス首相は、ミラー露ガスプロム社社長と会談。

【14日】リトアニアを訪問中のストラウユマ・ラトビア首相は、記者会見において、ビサギナス原発建設計画に関して、ラトビアは肯定的に考えており、経済性のある積算額の算出を待っている、また、12月に完成するリトアニアのクライペダLNGターミナルからのガス購入の可能性についても、経済的な数値が非常に重要であるとの見解を示した。

【19日】グリボウスカйте大統領は、韓国蔚山の現代重工業造船所において、LNG浮体式貯蔵・気化設備命名式典に出席。

【25日】露ガスプロムとのガス価格等の交渉に関し、グリボウスカйте大統領とプトケビチュウス首相が会談し、会談後の記者会見において、グリボウスカйте大統領は、プトケビチュウス首相が先週末ガスプロムより受け取った書面提案は2013年4月に受け取った党書案とほぼ同じものであり、受け入れられないと述べた。

日本との関係

【18日】白石大使は、本年のリトアニア文化首都パネヴェジス市日本週間のスタートとなる美野定雄氏和紙造形展のオープニングに出席し、挨拶を行った。その後、25日には茶道デモンストレーション、28日には生け花デモンストレーション・ワークショップを開催。

【23日～3月1日】オレカス国防大臣は訪日し、小野寺五典防衛大臣、岸信夫外務副大臣、中曽根弘文日・リトアニア友好議連会長、日・リトアニア友好協会代表者等と会談。オレカス国防大臣は、小野寺防衛大臣との会談において、今回の訪日は、防衛及び安全保障問題に関して、両国各機関が定期的な協議を行う上での第一歩となることを望んでいると発言。

【28日】若田宇宙飛行士の操作により、米NASA宇宙センターからリトアニア初の人工衛星LitSat-1(カウナス工科大学開発)及びLituaniaSat-1(ビリニウス大学開発)が順々に搬出され、無事軌道に乗った。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。